



日本コムシス株式会社

●わが社のCSR活動

CSR

通信建設業界のトップブランドとして 社会的使命を果たす

日本コムシス株式会社

1. はじめに

日本コムシスは1951年の創立以来、約60年にわたり、日本の通信ネットワークの進展を担ってきました。情報通信の基盤を支える高品質なネットワークの構築をミッションとし、安全で安心できる社会基盤整備の一翼を担っているコムシスが目指すCSRは「情報通信エンジニアリング事業を通じたCSR」にほか

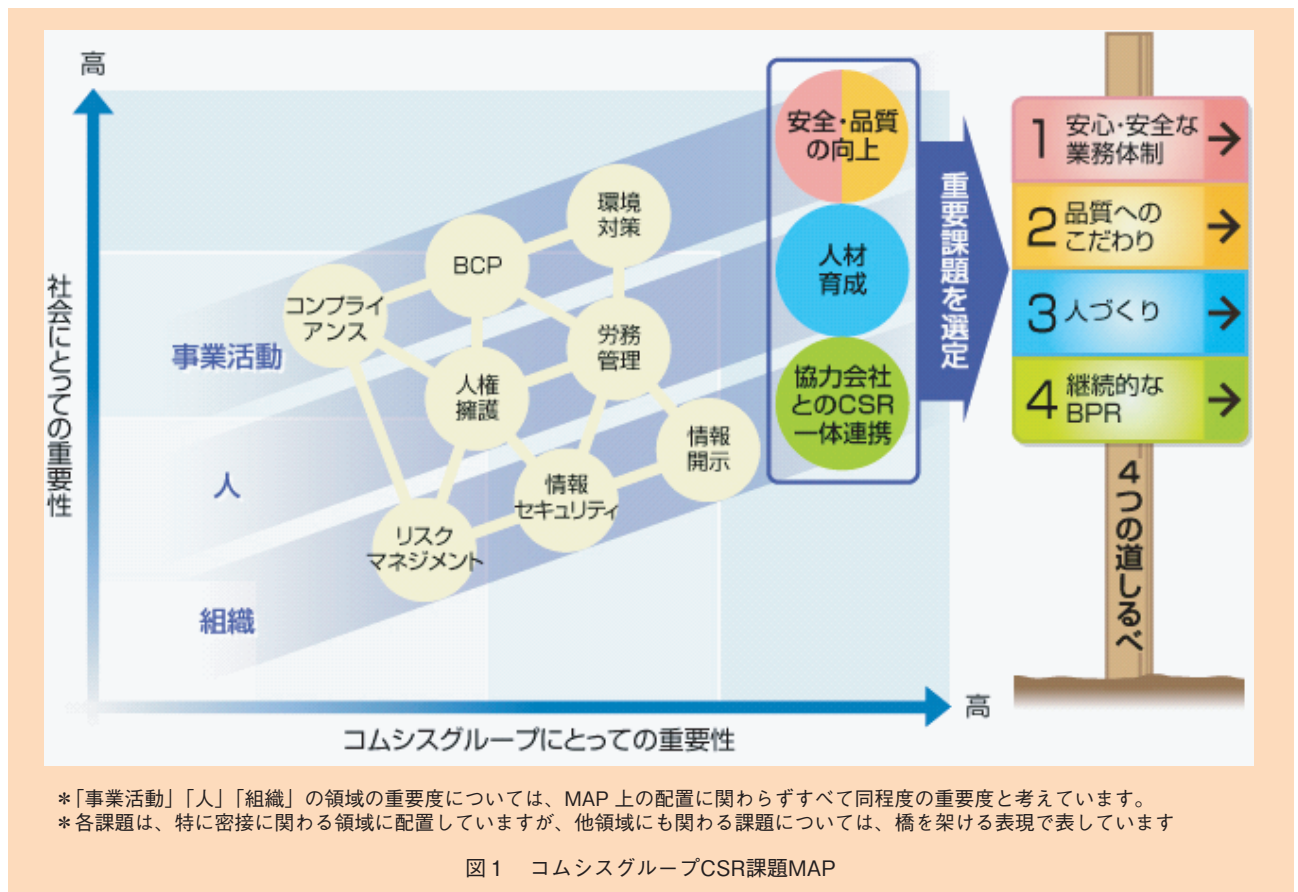
なりません。

「通信ネットワークによって人と人、人と社会がより豊かにつながる社会づくりに貢献」することをCSR理念として掲げ、まず第1に本業を進めることで持続可能な社会の実現を目指しています。

2. 重要課題の選定

これまでコムシスグループでは、

グループ全体を統括する「CSR委員会」が中心となり、コンプライアンス、コーポレート・ガバナンス、リスク管理、情報開示、情報保護、セキュリティ対策、社会貢献、環境などのテーマを対象としてCSR活動に取り組んできました。今後、より積極的なCSR活動を推進するために、優先的に取り組むべき課題を掲げています。選定した課題は、(1)安心・安全な業務体制、(2)品質への



こだわり、(3)人づくり、(4)継続的なBPR（ビジネスプロセス・リエンジニアリング）の4つです。これらは、これまで取り組んできた各種方針や「COMSYS WAY」「COMSYS WAY^α」の考え方を土台としたものですが、改めてグループ内で課題を共有することで、コムシスグループが目指す「4つの道しるべ」としてCSRに対する意識を一段と高めています。

3. 「4つのみちしるべ」

それぞれに課題について日本コムシスが取り組んでいる活動の一部をご紹介します

(1) 安心・安全な業務体制

・ドライブドクターの導入

コムシスグループでは、「安全はすべてに優先し、安全は作り込むもの」との考えから、コムシスグループのすべての業務において「安全」を最も重視すべき取組みであるとして、経営トップから現場スタッフまで一丸となり、日々の事業活動において常に意識して取り組んでいます。

日本コムシスでは、工事に伴う事故のみならず交通安全の意識向上に取り組んでおり、2011年度より「ドライブドクター」の導入を開始しました。ドライブドクターとは、通信機能やGPS機能を備えたドライブレコーダーで取得した運行情報を、NTTドコモ様の通信ネットワークを介して自動的に運用会社に転送し、運行情報を一元管理するシステムです。これにより、いつ、どこで、どのような危険イベントを起こしたかを個人ごとに集計し、日報や月報として運行情報の「見える化」が可能となりました。現在は、日本コムシスが所有する車両約1,000台でド

ライブドクターを導入しています。

導入前は、若手などを対象とした座学研修等で安全運転を指導してきましたが、ドライブドクターの導入により、個人、事業所ごとに定量的な安全評価と指導が可能となりました。加えて、ドライブドクターで得た事故映像を安全衛生協議会等で協力会社の社員にも公開し、コムシス・協力会社の社員・作業員の交通安全に対する意識変革に活用しています。実際に、現場の管理者や社員の意識も変化しつつあり、2012年4月と2013年4月で比較を行うと、急発進が37%減少、急減速が22%減少するなど、飛躍的に危険イベントの発生率が減少しています。

また、安全運転は企業の価値やイメージを守るだけでなく、急発進、急ブレーキの減少によるガソリン等の燃料費削減にも効果があることが期待されています。さらに、車両の稼働率を把握することで、車両の適正配備が可能となりました。

今後は個人の運転データの分析による特性から事故の未然防止、さらなるガソリン消費の削減等、次ステップに向けた取組みを加速していきます

(2) 品質へのこだわり

・QC (Quality Control) 活動

チームを組んで問題意識をもち、現場でできる範囲の中からさまざま

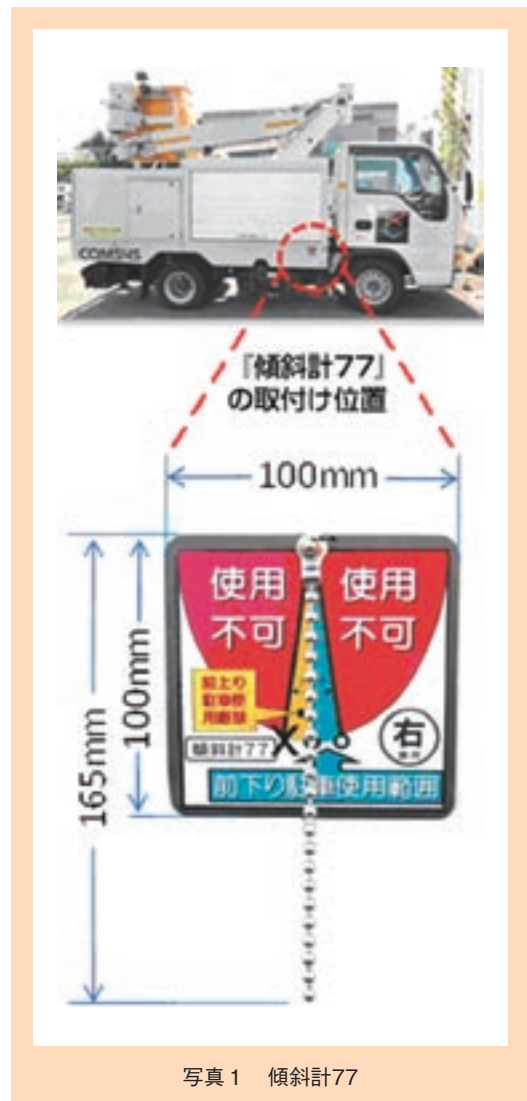


写真1 傾斜計77

な提案や仕組みづくりを実践し、効果があがった事例を広く社内に展開して付加価値の最大化を図るものとして、「QC (Quality Control) 活動」を実施しています。

・QC活動から実用化されたバケット車用「傾斜計77」

バケット車の前上がり駐車による車両のズリ落ちを咄嗟に身体で受け止めようとする行為により、毎年のように尊い命が失われる事故が起きています。

日本コムシスでは、災害ゼロを目指し、この「前上がり駐車」をしないう注意喚起するものとして、傾斜がひと目で分かる「傾斜計77」

を制作しました。

「傾斜計77」は、日本コムシスの関東中支店社員の考案により生まれたものです。従来水準器式傾斜計では傾斜角限度である7度以内かどうか正確な判断ができず、また、市販の傾斜計も高価であるため、栃木支店管内の全車両120台（2011年12月現在）への導入が困難だったことから、「信頼性のある、見やすい、安い傾斜計」を作ることを目的に考案されました。チェーンが重力により常に鉛直方向を示すことと、7度の駐車使用可能傾斜角範囲を表示版に貼り付けたことで、ひと目で車両の傾斜角度を目視できるようになりました。

安価で良質な製品を広く普及させることにより、全国的なバケット車の前上がり駐車による人身事故を減らしたいとの思いから、また、継続的に安定的なライセンス収入が見込めることから、2013年1月には意匠登録を行いました。今後、バケット車製造メーカー、電力会社の工事部門、CATV工事会社などバケット車を使用しているさまざまな業界で利用されることも期待され、販売数が拡大し、普及がさらに広まるものと考えています。

(3) 人づくり

・班長セミナー開催

全認定班長に対し、現場第一線の監督者として指示処分、改善勧告阻止に向けた人身・設備・交通事故を絶対に起こさない意識をはじめ、現場指導力の向上、リスクアセスメント、安全施工サイクルなどについての研修を行っています。

・階層別研修の実施

キャリアアップを目的として階層別研修を実施しています。新入社員の1年後のフォローアップ研修や若手社員の3年目のフォローアップ研

修、また、中堅社員や管理者を対象とした研修など、各ステップアップ時にさまざまな研修を実施しています。

(4) 継続的なBPR

・太陽光発電事業

コムシスグループは長年にわたり培ってきた、電気、建築、土木などのさまざまなノウハウ、人材、技術を強みとして活かし、潜在力を一層発揮しうる新たな事業領域として、地域社会への貢献を目指しています。

この強みを活かし、1996年に開始した太陽光発電事業では、2012年現在、EPC（設計・調達・建設）やO&M（維持・管理）だけでなく、IPP（独立系発電）事業にも取り組んでいます。

2013年3月には、茨城県常陸太田市に通信建設業界で初となる大規模太陽光発電所（メガソーラー）常陸太田発電所Aサイト、Bサイトを完成させ、2013年4月より稼働を開始しました。続いて、2013年10月に昭和太陽光発電所（群馬県昭和

村）、2013年11月には津太陽光発電所（三重県津市）も稼働を開始しております。

今後は九州および関東で予定しております。地域環境保全への取り組みを継続するとともに、技術のさらなる発展へ貢献してまいります。

4. おわりに

今回は活動のほんの一部を紹介させていただきました。

日本コムシスが社会的使命を果たすためには、4つの重要課題を軸に、本業を通じて、一人ひとりがCSR活動に取り組んでいくことが必要だと考えております。業界のトップブランドとして、日本コムシスならではの活動を推進することにより、さまざまなステークホルダーの期待に応え、社会に貢献できる企業として成長を目指します。

今後とも、皆さまの変わらぬご支援、ご指導をよろしくお願い申し上げます。



写真2 基礎設置工事



① 草刈り



② 整地



③ 杭打ち



④ 架台設置



⑤ 安全パトロール



⑥ 機器設置



⑦ パネル設置



⑧ 設置完了



⑨ 完成

写真3 太陽光発電所ができるまで